

令和5年(ワ)第421号 国家賠償等請求事件

原告 ●●●●

被告 国外3名

証拠説明書 (2)

令和6年1月13日

福岡地方裁判所小倉支部第3民事部 御中

原告訴訟代理人

弁護士 南 出 喜 久 治

弁護士 木 原 功 仁 哉

原告が提出した下記の甲号証について、以下のとおり証拠の説明を行ふ。

1 甲第17号証の1

文書の標題	論文「Doshi P, Pfizer and Moderna' s “95% effective” vaccines—we need more details and the raw data. BMJ, Jan 4, 2021. (ドーシー P. 「ファイザーとモデルナの“有効率95%” —我々はさらなる詳細と生データを求めている」BMJ、2021年1月4日)」
作成者	Peter Doshi
作成年月日	令和3年1月4日
原本写の別	写し
立証趣旨	海外C4591001試験においては、症状疑ひのある3,410人にPCR検査がなされなかつたことを指摘する論文の存在及びその内容。

2 甲第17号証の2

文書の標題	甲第17号証の1の日本語訳
作成者	原告訴訟代理人弁護士木原功仁哉
作成年月日	令和6年1月
原本写の別	写し
立証趣旨	甲第17号証の1に同じ

3 甲第18号証の1

文書の標題 記事「Thacker PD, Covid-19: Researcher blows the whistle on data integrity issues in Pfizer's vaccine trial. BMJ, Nov 2, 2021. (ポール D サッカー「Covid-19 : 研究者がファイザー社のワクチン試験におけるデータ完全性の問題を内部告発」BMJ、2021年11月2日)」

作成者 Paul D Thacker

作成年月日 令和3年11月2日

原本写の別 写し

立証趣旨 海外 C4591001 試験の受託研究会社における不適切な慣行が明らかになり、データの完全性と規制当局（FDA：アメリカ食品医薬品局）による監視の在り方について疑問が生じてゐる事実等

4 甲第18号証の2

文書の標題 甲第18号証の1の日本語訳

作成者 原告訴訟代理人弁護士木原功仁哉

作成年月日 令和6年1月

原本写の別 写し

立証趣旨 甲第18号証の1に同じ

5 甲第19号証の1

文書の標題 返信「Skowronski DM, et al., Safety and efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 vaccine. N Engl J Med, Feb 17, 2021. (「Danuta M. Skowronski BNT162b2 mRNA Covid-19 ワクチンの安全性と有効性」ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン、2021年2月17日)」

作成者 Danuta M. Skowronski

作成年月日 令和3年2月17日

原本写の別 写し

立証趣旨 ファイザーがFDA（食品医薬品局）に提出された文書を使用して、1回目接種2週間後から2回目の投与前までのワクチンの有効性を算定したところ、下表のとほり、2回目の投与前であつても、ワクチン有効性は92.6%と非常に有効であつたといふのであり、1回目接種で十分な感染予防効果があるのに、それを敢へて低い有効率をもつて評価したのは、ファイザーの意向を容れてゐるとの疑ひが濃厚であること等

6 甲第19号証の2

文書の標題 甲第 19 号証の 1 の日本語訳
作成者 原告訴訟代理人木原功仁哉
作成年月日 令和 6 年 1 月
原本写の別 写し
立証趣旨 甲第 19 号証の 1 に同じ

7 甲第 20 号証の 1

文書の標題 論文「Tartof SY, et al., Effectiveness of mRNA BNT162b2 COVID-19 vaccine up to 6 months in a large integrated health system in the USA: a retrospective cohort study. Lancet, Oct04, 2021. (タルトフ S.Y. ほか「米国の大規模統合医療システムにおける mRNA BNT162b2 新型コロナウイルス感染症ワクチンの最長 6 カ月の有効性：後ろ向きコホート研究」(ランセット、2021 年 10 月 4 日)」

作成者 サラ Y. タルトフ
作成年月日 令和 3 年 10 月 4 日
原本写の別 写し
立証趣旨 被告ファイザーは、本論文を根拠に、ワクチンの有効性(入院予防効果)が 2 回目接種後 6 カ月までの追跡調査で保たれたと主張するが、
①同研究の資金提供者がファイザー自身であり、著者のうち 7 名は同社従業員であるなど「ファイザー丸抱へ」の論文であること
②同研究では、介入群(接種群)とプラセボ群とで背景因子をランダムに割り付けることができなかつたことを著者自身が認めてゐること
等を立証する。

8 甲第 20 号証の 2

文書の標題 甲第 20 号証の 1 の一部の日本語訳
作成者 原告訴訟代理人木原功仁哉
作成年月日 令和 6 年 1 月
原本写の別 写し
立証趣旨 甲第 20 号証の 1 に同じ

9 甲第 21 号証

文書の標題 文献「木原雅子ほか監訳「WHO の標準疫学〔第 2 版〕」45～73 頁
作成者 三煌社

- 作成年月日 平成 20 年 3 月
 原本写の別 写し
 立証趣旨 ランダム化比較試験及びコホート研究の概要等
- 10 甲第 2 2 号証の 1
 文書の標題 論文「Wareham KJ, et al., Sponsorship bias and quality of randomised controlled trials in veterinary medicine. BMC Veterinary Research, 13:234, 2017.」
 (KJ. ウェアハム「獣医学における無作為化比較試験のバイアスと質」BMC 獣医学研究, 13:234, 2017.)」
 作成者 KJ. ウェアハム
 作成年月日 平成 29 年
 原本写の別 写し
 立証趣旨 獣医学系論文 410 編を調査したところ、製薬系からの資金提供を受けた論文の 56.9%で、試験の対象となつた医薬品に肯定的な結論が出てをり、非製薬系の資金提供を受けた論文の 29.1%よりも有意に高いとの結果が得られたこと等
- 11 甲第 2 2 号証の 2
 文書の標題 甲第 22 号証の 1 の日本語訳
 作成者 原告訴訟代理人木原功仁哉
 作成年月日 令和 6 年 1 月
 原本写の別 写し
 立証趣旨 甲第 22 号証の 1 に同じ
- 12 甲第 2 3 号証の 1
 文書の標題 英国保健安全庁 (UKHSA) のブログ「Ramsay M, Transparency and data - UKHSA's vaccines report. UK Health Security Agency, Nov 2, 2021. (マリー・ラムセイ 「透明性とデータ - UKHSA のワクチン報告書」)」
 作成者 マリー・ラムセイ
 作成年月日 令和 3 年 11 月 2 日
 原本写の別 写し
 立証趣旨 仮に接種者の方が非接種者よりも感染率が高いといふデータが存在しても、それに対する様々な「言ひ訳」ができ、後ろ向きコホート研究では両群をランダムに割り付けることが不可能であること原因であるから、エビデンスレベルは乏しいこと等
- 13 甲第 2 3 号証の 2

- 文書の標題 甲第 23 号証の 1 の日本語訳
 作成者 原告訴訟代理人弁護士木原功仁哉
 作成年月日 令和 6 年 1 月
 原本写の別 写し
 立証趣旨 甲第 23 号証の 1 に同じ
- 14 甲第 2 4 号証の 1
 文書の標題 論文「Chemaitelly H, et al., Waning of BNT162b2 Vaccine Protection against SARS-CoV-2 Infection in Qatar, N Engl J Med, Dec 21, 2021. (シュマイテリー H. ほか「カタールにおける SARS-CoV-2 感染に対する BNT162b2 ワクチンの予防効果の低下」ニュー・イングランド・ジャーナル・オブ・メディシン、2021 年 12 月 21 日)」
 作成者 シュマイテリー H. ほか
 作成年月日 令和 3 年 12 月 21 日
 原本写の別 写し
 立証趣旨 同論文では、2 回接種後の重症化予防効果が 6 カ月間継続したと主張するが、一般化可能性が乏しく、エビデンスレベルが低いこと等
- 15 甲第 2 4 号証の 2
 文書の標題 甲第 24 号証の 1 の日本語訳 (抜粋)
 作成者 原告訴訟代理人弁護士木原功仁哉
 作成年月日 令和 6 年 1 月
 原本写の別 写し
 立証趣旨 甲第 24 号証の 1 に同じ
- 16 甲第 2 5 号証
 文書の標題 人口ピラミッド (カタール・令和 3 年)
 作成者 population-pyramid.net
 作成年月日 令和 5 年 12 月 29 日
 原本写の別 写し
 立証趣旨 Chemaitelly 論文が発表された令和 3 年当時のカタール国の高齢者 (65 歳以上) の割合は 1.56%に過ぎないこと
- 17 甲第 2 6 号証の 1
 文書の標題 論文「Haas EJ, Infections and COVID-19 cases, hospitalisations, and deaths following a nationwide vaccination campaign in Israel: an observational study using national surveillance data. Lancet, May

5, 2021. (ハース E. J. ほか「イスラエルでの全国的なワクチン接種キャンペーン後の SARS-CoV-2 感染症および新型コロナウイルス感染症の症例、入院、死亡に対する mRNA BNT162b2 ワクチンの影響と有効性：国家監視データを使用した観察研究」、ランセット、2021 年 5 月 5 日) 」

作成者
作成年月日
原本写の別
立証趣旨

シュマイテリー H. ほか

令和 3 年 5 月 5 日

写し

同論文は、ファイザー社製ワクチンを 2 回接種した人の重症化予防効果が 90%であったといふものであるが、後ろ向きコホート研究としてエビデンスレベルが乏しいものであること等

18 甲第 26 号証の 2

文書の標題
作成者
作成年月日
原本写の別
立証趣旨

甲第 26 号証の 1 の日本語訳 (抜粋)

原告訴訟代理人弁護士木原功仁哉

令和 6 年 1 月

写し

甲第 26 号証の 1 に同じ